



現代の志塾

多摩大学のゼミ活動 ～これまでの20年、そして今～

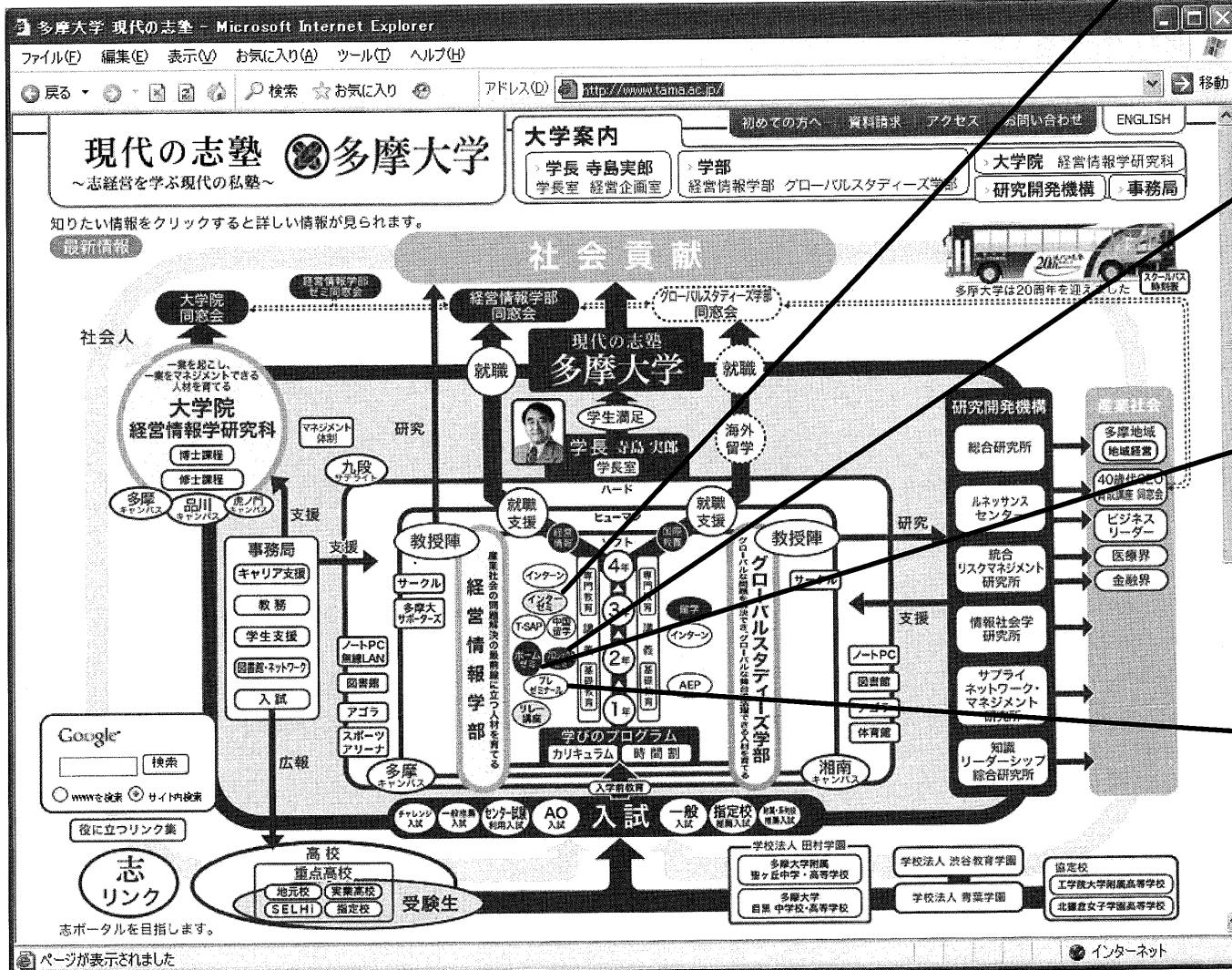
経営情報学部の志「産業社会の問題解決の最前線に立つ人材を育てる」
ゼミ活動をご紹介します。

2009.6



多摩大学経営情報学部のゼミには、大きく分けて「プレゼンナル」「ホームゼミ」「プロジェクトゼミ」「インターゼミ」の4つがあります。本冊子では、それぞれのゼミを担当する教員の志を紹介すると共に、これまでのマスコミ等に取り上げられた掲載記事をとりまとめご紹介いたします。

▼最新の情報は、多摩大学ホームページをご覧ください <http://www.tama.ac.jp/>



インターゼミ（社会工学研究会）

現代社会の抱える課題について、学部・大学院・学年などをまたぎ、塾形式で切磋琢磨しながら、多様な要素や手法を組み合わせた柔らかい発想で、体系的・総合的な答を志向する総合設計力を身に付けるゼミです。

受講生自身による問題発掘・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へいたるプロセスの中で、寺島塾長以下学内の教員や社会で活躍する学外の賢人による附加值を高め、創造的問題解決策を志向・策定していきます。

プロジェクトゼミ

多摩大学の教員はもちろん、学外の研究者や専門家、経済界のキーパーソンたちが、学問体系に縛られることなく、現実的かつユニークなテーマを掲げて開講する多摩大学独自の問題解決型ゼミナールです。

様々な分野の問題に自由なスタイルで取り組み、より実学に近いスタンスでトータルなプロジェクト志向を身につけます。

ホームゼミ

実践力養成のため2年次からスタートする「専門ゼミ」です。プレゼンゼミを参考に、学生一人ひとりが興味、関心のあるテーマを選択し、専門分野のエキスパートである教員の指導・サポートを受けながら自主的に研究活動を行っていきます。少人数グループでの討論、発表を通じてコミュニケーションとプレゼンテーションの能力を養うとともに、将来の生き方にもつながる「志」を培っていきます。

プレゼンナル

1年生を対象に、ホームゼミにつなげるテーマオフプログラムです。

3グループに分かれ、4週間でワンクールが終了し、1年間で3クールをリレー式（テーマは教員別）に受講します。3人の教員が担当することで多様な価値観に触れ、学生本人が学びの目標を見出すとともに、ディスカッションやグループ活動などゼミ形式の授業に慣れる目的としています。

インターベンション (社会工学研究会)

塾長 寺島実郎学長

ディズニーランドの研究

多摩ニュータウンの再生

鳴子温泉の活性化

アジアとの交流プログラム

グリーンニューディール

プロジェクトゼミ

多摩市のシティーセールス

講師 中庭光彦
コーディネーター 松本祐一

公民連携ビジネスプランニング

講師 片桐徹也
コーディネーター 松本祐一

集客施設のマーケティング

講師 松本祐一
コーディネーター 松本祐一

地域密着型の経営とエリア・マーケティング

講師 相原正道
コーディネーター 広瀬一郎

横浜FCゲームイベント企画と実施

講師 江頭満正
コーディネーター 広瀬一郎

携帯端末を用いた仮想・混合・拡張現実感の提供システムの開発

講師 田中雄 コーディネーター 出原至道

価値化マーケティングの実践と価値判断形成

講師 笠原秀隆 中川理
コーディネーター 豊田裕貴

ニーズ視点の商品開発と実践

講師 中塚千恵 大風薰
コーディネーター 豊田裕貴

INPUT(理論)とOUTPUT(実践)による知的プロフェッショナルへの挑戦

講師 中野未知子 コーディネーター 酒井麻衣子

データによる表現力

講師 馬場康維
コーディネーター 今泉忠

環境問題に“ビジネス”と“金融”からアプローチする

講師 見山謙一郎 菅野光公
コーディネーター

メディア発信法

講師 木村知義
コーディネーター 今泉忠

国際ビジネス・コミュニケーション

講師 稲葉稔
コーディネーター 今泉忠

アイデンティティ!

講師 ジム・ハサウェイ
コーディネーター 今泉忠

就職力、仕事力 大研究

講師 竹村之宏
コーディネーター 今泉忠

クラシック名作映画を見て人生を考え、広告コピーを創作する

講師 大槻博 コーディネーター 今泉忠

ホームゼミ

担当教員

飯田 健雄

石川 晴子

出原 至道

今泉 忠

梅澤 佳子

大森 映子

大森 拓哉

金子 邦博

菅野 光公

斎藤T.裕美

斎藤S.裕美

酒井 麻衣子

椎木 哲太郎

下井 直毅

沈 才彬

杉田 文章

常見 耕平

豊田 裕貴

中村 その子

中村 有一

野田 稔

浜田 正幸

春田 尚徳

樋口 裕一

久恒 啓一

Paul Dore

松本 祐一

村山 貞幸

望月 照彦

諸橋 正幸

山内 晓

山原 克明

経営・経済系



飯田 健雄 教授
イイダ タケオ
所属：経営情報学部

プロフィール

1985年オーストラリア・ラトループ大学大学院卒業(Ph. D.)。高校時代は三段跳びをやっていた。現在はボディーボードが趣味。将来、ノースショア(ハワイ)で5メートル級の波に挑戦したい。国際ビジネス学会



常見 耕平 教授
ツネミ コウヘイ
所属：経営情報学部

プロフィール

大阪大学経済学部卒。富山女子短期大学講師を経て多摩大学へ、2004年より現職。専門は経営組織論、日本経営史。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

学ぶ人。



春田 尚徳 教授
ハルタ ヒサヨシ
所属：経営情報学部
大学院経営情報学研究科
主な職歴：経済産業省

プロフィール

東京大学工学部卒。ペンシルベニア大学大学院修了。工学博士(東京大学)。経済企画庁に入り、国土庁、大蔵省、国連事務局、通産省等に勤務、名古屋大学教授を経て、現在コンサルタント会社社長、多摩大学・大学院教授。慶應大学清華大学中国西部地域振興政策研究委員、日越・日波・日ウズベキスタン・日モンゴル・日グルジア中枢政策支援協力 他。



椎木 哲太郎 准教授
シイギ テツタロウ
所属：経営情報学部

プロフィール

大学院（経済学研究科博士課程）修了後、NPO、研究機関勤務を経て現職。歴史や文化財、古典文学等にも深い関心を持ち、趣味として研究を続けている



下井 直毅 准教授
シモイ ナオキ
所属：経営情報学部

プロフィール

1995年 東京大学経済学部卒、1997年 東京大学大学院経済学研究科博士課程へ進学、その後、日本経済国際共同研究センター研究機関研究員、日本学術振興会特別研究員を経て、現在に至る。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

基礎的な読み、書き、計算ができるような人材。
しっかりと自分の頭で考えることができる人材。
何が問題なのか、どういう解決方法・手段がありうるのか、といった論点を抽出できる人材。

これらの能力を身につけ、それを誠実に実行できる人材。



菅野 光公 教授
カンノ コウコウ
所属：経営情報学部
主な職歴：日本石油

プロフィール

1969年京都大学経済学部卒、日本石油（株）入社、1989年日本エネルギー経済研究所へ出向、1991年未来資源研究所（米国ワシントン）客員研究員、1993年日本石油USA副社長、1998年室蘭工業大学国際交流室助教授、2002年室蘭工業大学国際交流室長・教授、2008年多摩大学経営情報学部教授

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

地球環境問題（温暖化防止・新エネルギー推進・環境教育促進）を学び、地球環境を変革する志と実践力とを持った学生を育成する。加えて、学んだことを小中学生等の子供達にも、伝えることが出来る能力を身につける。



沈 才彬 教授
シン サイбин
所属：経営情報学部
大学院経営情報学研究科
主な職歴：三井物産戦略研究所

プロフィール

1944年中国江蘇省海門市生まれ。中国社会科学院大学院修了。同大学院準教授、東京大学、早稲田大学、御茶ノ水女子大学、一橋大学などの客員研究員を歴任。三井物産戦略研究所主任研究員、同中国経済センター長を経て08年4月より現職。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

「学生」の原点は「学ぶ」と「生きる」にあります。「学ぶ」とは自分の将来に役立ち、社会にも貢献できる知識を身につけることです。「生きる」とは、人間の命の大切さを認識し、有意義な人生を送ることです。

マーケティング・経営戦略系



久恒 啓一 教授
ヒサツネ ケイイチ

所属：経営情報学部
大学院経営情報学研究科
主な職歴：日本航空

プロフィール

九州大学法学部卒業。昭和48年日本航空株式会社入社、ロンドン空港支店、客室本部労務担当等を経て、本社広報課長、サービス委員会事務局次長を歴任。ビジネスマン時代から「知的生産の技術」研究会に所属し著作活動も展開。日本航空を早期退職し、平成9年4月新設の宮城大学教授に就任。著作や雑誌への寄稿や講演など全国区で活躍する一方、宮城県では多数の審議会・委員会の委員などをつとめた。

平成20年4月より多摩大学経営情報学部教授に就任。平成21年2月より学長室長。NPO法人知的生産の技術研究会理事長。

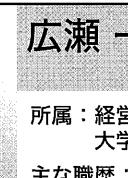
平成16年度より中国・吉林大学客員教授。平成20年度より宮城大学名誉教授。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

『現代の志塾』～産業社会の問題解決の最前線に立つ人材を育てる～

久恒ゼミ=顧客満足ゼミ

久恒ゼミの志=産業社会の問題解決の最前線



広瀬 一郎 教授
ヒロセ イチロウ

所属：経営情報学部
大学院経営情報学研究科
主な職歴：電通

プロフィール

1955年生まれ。東京大学法学部を卒業し、(株)電通に入社。スポーツイベントのプロデュース多数。2000年に退職し、㈱スポーツ・ナビゲーション設立。2002年に退職し、経済産業研究所上席研究員を経て、2004年にスポーツ総合研究所設立。2005年に江戸川大学社会学部教授就任。



星野 克美 教授
ホシノ カツミ

所属：経営情報学部
大学院経営情報学研究科

プロフィール

名古屋大学経済学部経営学科卒業。筑波大学社会工学系・同大学院修士課程経営政策科学研究科助教授を経て、1989年多摩大学経営情報学部・同大学院経営情報学研究科教授。ITビジネスモデル開発コンサルティング（約40社以上）、ITベンチャービジネス社外重役・顧問（4社）個人情報保護事業推進など、日本産業界のIT革命&知財革命に粉骨碎身で活躍。「記号論マーケティング（Semiotic Marketing）」、「認知科学マーケティング」の世界的バイオニア。特定非営利活動法人日本技術者連盟会長、特定非営利活動法人日本マーケティングプライバシー認証機構理事長。研究テーマ：IT未来学（IT Futureology）、ユビキタスビジネス未来戦略予測、ユビキタスビジネスモデル発明支援システム。世界初の「ITビジネスモデル発明支援システム」を共同開発中で（「ITビジネスモデル創出支援システム」特許出願公開済、特開2005-141586）、全国・全世界の「知財開発コンピュート」と「ITビジネスインキュベーション」の知識創造支援装置として啓蒙普及活動を展開する予定。



村山 貞幸 教授
ムラヤマ サダユキ

所属：経営情報学部
大学院経営情報学研究科
主な職歴：電通

プロフィール

慶應義塾大学経済学部卒。慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了。MBA（経営学修士）。株式会社電通などを経て、現在、多摩大学大学院教授、グローバル経営大学院パートナー・ファカルティ、村山戦略マーケティング研究会代表。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

プロフェッショナルを目指します。

本ゼミの定義 プロフェッショナルとは、

- 1) 専門能力
 - 2) 社会性
 - 3) 倫理感
- をトップレベルで持っている人。



酒井 麻衣子 准教授
サカイ マイコ

所属：経営情報学部

プロフィール

京都大学教育学部（心理学）卒、法政大学大学院 博士前期課程経営学専攻（マーケティング）修了。複数の民間企業でデータ分析コンサルティングに携わりながら、社会人向けセミナー講師・大学非常勤講師などを経て2005年4月より現職。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

「データを分析する技術を有し、問題解決のための判断・企画・実践ができる人材」となって社会にはばたくことを目指しています。



豊田 裕貴 准教授
トヨダ ユウキ

所属：経営情報学部
大学院経営情報学研究科

プロフィール

法政大学経営学部卒、法政大学大学院にて経営学修士号(MBA)、経営学博士号(DBM)を取得。博士（経営学）。その間、ビデオリサーチ嘱託研究員、東京ガス都市生活研究所専門研究員などを経て2004年4月より多摩大学助教授。専門は、マーケティング。特に、リサーチベースのマーケティングから、ブランド・エクイティ、消費者行動を研究対象としている。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

単なる知識ではなく、使える知識を身につけた人材となることを目指している。



浜田 正幸 准教授
ハマダ マサユキ

所属：経営情報学部

主な職歴：野村総研

プロフィール

早稲田大学大学院修士課程修了。本田技研工業、野村総合研究所などを経て現職。株式会社ケアブレインズ取締役兼務。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

【浜田ゼミ 経営理念】ゼミを通じて、自然と社会の仕組みを解明していくことに貢献し、地球社会と自分自身の人生をゆたかにおもしろくしていきます。

会計・財務系



山原 克明 教授
ヤマハラ カツアキ
所属：経営情報学部
主な職歴：文部科学省
プロフィール
中央大学商学部卒。多摩大学大学院経営情報学研究科修了。経営情報学博士（多摩大学）。公立高等学校、文部科学省勤務、多摩大学助教授を経て2004年多摩大学教授に。研究テーマは経営力の評価。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

バースペクティブ
自らの智を巡らせて経済社会の創造に資する



金子 邦博 准教授
カネコ クニヒロ
所属：経営情報学部
主な職歴：日本公会計総合研究所
プロフィール
学歴：法政大学大学院社会科学研究科修士課程修了（修士（政治学））、慶應義塾大学大学院商学研究科博士前期課程修了（修士（商学））、中央大学大学院総合政策研究科博士後期課程。
職歴：地方公務員として神奈川県庁勤務を経て、公認会計士を開業、株式会社日本公会計総合研究所代表取締役を務める。平成20年より多摩大学准教授。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

金子ゼミは、専ら「会計」を学んでいくこと主目的としています。

情報系



出原 至道 教授
イデハラ ノリミチ

所属：経営情報学部
グローバルスタディーズ学部
大学院経営情報学研究科

プロフィール

東京大学工学部都市工学科卒、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了、同博士課程修了。博士（工学）東京大学。多摩大学助手、非常勤講師を経て、助教授、平成10年より大学院助教授。専攻は、都市工学。授業は、理論に根ざした実践的情報処理を通じて、知の領域が広がる楽しさを目指す。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

情報技術のスキルをもとに、自分自身のオリジナルなアイディアを他の人と共同して実現していく人材を目指す。理想的には、ゼミ在籍中に、外部からも評価される実績をあげる成功体験を通じて、その後の人生の中で少々のことにはくじけない強さとしなやかさを身につけてもらいたい。また、社会の中でその能力を発揮するために、社会人としての最低限の礼儀作法や社会性も指導の対象としている。



今泉 忠 教授
イマイズミ タダシ

所属：経営情報学部

プロフィール

立教大学社会学部産業関係学科卒。立教大学大学院社会学研究科応用社会学専攻博士前期課程修了（社会学修士）。東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻博士後期課程単位取得満期退学。青山学院大学理工学部経営工学科助手を経て、多摩大学助教授・大学院助教授。平成7年多摩大学教授・大学院教授。平成13年より経営情報学部学部長を経て現職。日本行動計量学会理事。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

経済・経営でのさまざまな現象に潜む変化の構造を探り、予測するための近似としてのモデルを考え試せる人材を育成したい。



齋藤T 裕美 教授
サイトウ ヒロミ

所属：経営情報学部
グローバルスタディーズ学部
大学院経営情報学研究科

プロフィール

早稲田大学理工学部建築学科卒。東京大学大学院工学系研究科都市工学専門修士課程修了、同博士課程修了。工学博士（東京大学）。東京大学先端科学技術研究センター・都市環境システム分野助手。多摩大学助教授・大学院助教授を経て、教授・大学院教授。一級建築士。専攻は都市工学。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

最終的に、ゼミ活動の中で目指しているのは、誰に言われるのではなく、自分でものを考えて作り出すことが出来る人、すなわち自立した人になるということにつきます。



諸橋 正幸 教授
モロハシ マサユキ

所属：経営情報学部 学部長

主な職歴：日本IBM

プロフィール

早稲田大学大学院理工学研究科修了後、日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所に勤務。その後、多摩大学非常勤講師を経て、1999年多摩大学の教授、2008年より経営情報学部長。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

インターネット、ユビキタスなどの新技術の広がりにより激動する世界の中で、先を見通す力を養い、時代に翻弄されない能力を身につける。



大森 拓哉 准教授
オオモリ タクヤ

所属：経営情報学部

プロフィール

筑波大学第三学群基礎工学類構造工学専攻卒業、東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻修士課程修了、東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程中退、東京大学大学院総合文化研究科助手

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

このゼミでは、人間の心理や行動のしくみ・はたらきを明らかにすることにより、「的確な情報収集力・情報分析力・情報発信力」を養うことを目的としています。



齋藤S 裕美 准教授
サイトウ ヒロミ

所属：経営情報学部

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

大きくわけて「著作権を中心とした知的財産権分野」と、「個人情報保護を中心とした情報セキュリティ分野」の2つの分野について知識の修得、問題意識の醸成と問題の発見・分析、問題解決のための方法の考察を行うことで、それら分野において活躍できる人材を育成します。



中村 有一 准教授
ナカムラ ユウイチ

所属：経営情報学部
大学院経営情報学研究科

プロフィール

東京大学工学部電気工学科卒。東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻修士課程修了（工学修士）、同第1種博士課程退学。東京大学工学部都市工学科助手を経て、多摩大学准教授・大学院准教授。もともとコンピュータとの出会いは都市工学の研究者としてであったが、現在も主に、地域間の情報交流の分析およびモデル化の研究を推進中。広域ネットワーク上のグループウェアの開発なども手がける。

ゼミの志 ～どんな人材を育てたいか～

現代社会のさまざまな課題に挑戦できる実務的な能力を持つ。新たな課題を発見し、新しいサービスや製品を開発できる能力を持つ。

語学・文化系

大森 映子 教授
オオモリ エイコ
所属：経営情報学部

ゼミの志 ~どんな人材を育てたいか~

歴史学的な手法を通じて、過去の諸相を明らかにしていくとともに、現代社会を客観的に見直す視点を養います。

杉田 文章 教授
スギタ フミアキ
所属：経営情報学部

プロフィール

中央大学法学部政治学科、筑波大学大学院修士課程体育研究科、多摩大学講師を経て現職。帝京大学女子バレー部監督、八王子のママさんバレー部チームのコーチを務めるかたわら、趣味のゴルフもしっかり楽しむ。

樋口 裕一 教授
ヒグチ ユウイチ
所属：経営情報学部

プロフィール

1951年大分県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。立教大学大学院博士後期課程満期退学（一般書などの略歴では「博士後期課程修了」としているが、それは複数の出版社から「ふつう本の略歴には満期退学とは書かない」と言われて訂正されたため）。京都産業大学客員教授（専任タイプ）を経て、現職。

ゼミの志 ~どんな人材を育てたいか~

私のゼミでは、メディアを読み取り、使いこなせる人間を育成します。

望月 照彦 教授
モチツキ テルヒコ
所属：経営情報学部
大学院経営情報学研究科

プロフィール

静岡県清水市出身。日本大学理工学部建設工学科大学院終了。デベロッパーで幾つもの都市開発、地域創造に係わり、「まちづくり」のブームを起こす。その後、ベンチャービジネスを自ら多数輩出。現在コミュニティビジネスを始めとした地域起業の支援・研究を行っている。地域産業や観光産業を工学ではなく、幸学（ハッピーエンジニアリング）という視点で取り組んでいる。その実践として、稻城市行政改革監理委員会座長等多数のプロジェクトに参加。法政大学大学院、静岡文化芸術大学で教え、長野起業塾塾長、世田谷商人塾塾長等も兼務。

石川 晴子 准教授
イシカワ ハルコ
所属：経営情報学部

プロフィール

英国ヨーク大学大学院言語学部博士課程修了。関東学院大学文学部非常勤講師、日本大学短期大学部非常勤講師を経て現職。

梅澤 佳子 准教授
ウメザワ ヨシコ
所属：経営情報学部

ゼミの志 ~どんな人材を育てたいか~

1. 現代社会で自分の立ち位置を認識し、今何をすべきかを正しく見極め、自らの強い意志によって行動できる、そのような人物像を目指しています。そのために、世の中を正しく理解するための基本的な知識と教養、情報を的確に取捨選択し活用できる能力を身につけてもらいます。
2. 私欲のために行動するのではなく、自ら積極的に社会と関わる、社会に貢献しようとする姿勢を育みます。そして周囲の人々から信頼される人物となってもらいたいと考えています。
3. 社会人として自己管理が行きとどき、徳を身につけ、品格のある舞いが出来る人物像を目指しています。
4. 上記の3つを根底で支える豊かな人間性、幅広い教養の大切さを認識し、一生涯をかけて研鑽を積むことを怠らない人物像を目指しています。

Paul Dore 准教授
ポール ドーレ
所属：経営情報学部

プロフィール

1990年 Started Bachelor of Arts in Social Welfare. Queensland University of Technology. Brisbane, Australia
1993年 Travelled in Europe for 1 year. England, Spain, Greece, Turkey, France and Czech Republic.
1995~2000年 Started Bachelor of Arts in Languages and Applied Linguistics. Griffith University, Brisbane, Australia.
1998年 English teaching in Korea. Kwang-UN University and Seoul Sun-Op University, Seoul, South Korea.
2001年 Started teaching English at Tama University.

中村 その子 准教授
ナカムラ ソノコ
所属：経営情報学部

プロフィール

青山学院大学文学部卒。青山学院大学大学院修士課程修了。関東学院大学文学部非常勤講師を経て現職。

ゼミの志 ~どんな人材を育てたいか~

人間的な真の実力を伴って「ことばを使わせればビカいち！」と称される人がこのゼミからたくさん旅立つことを心から願って、日々ゼミの活動を行っています。

「現代の志塾」 多摩大学のゼミ活動 掲載記事目次

発行日付	種別	タイトル・見出し	対象ゼミ名	媒体種類	媒体名	頁
1996.02.26	記事	企業人との交流の中から生きた経営学を学ぶ実践型ゼミ。	柳孝一ゼミ	雑誌	日経ビジネス	11
1996.11.06	記事	ニュータウン将来像は…多摩大生が個性的提案	望月照彦ゼミ	新聞	日本経済新聞	12
1997.03.10	記事	学生ベンチャー経営者が続々 インターネットが"主戦場"	国分裕之	新聞	日本経済新聞	13
1997.04.01	記事	起業化精神を『種付けする』多摩大学・望月ゼミ	望月照彦ゼミ	雑誌	アントレ	14
1999.02.04	記事	キャンパス多摩 若き起業家夢見て 自ら情報集め企画 活躍する卒業生も	望月照彦ゼミ	新聞	読売新聞 多摩版	15
1999.04.01	記事	仮想世界手作り	出原至道ゼミ	新聞	読売新聞 多摩版	16
2000.09.01	記事	movieをつくろう！多摩大学・齋藤裕美ゼミが高校生の「デジタルムービーコンテスト」を開催	齋藤T.裕美ゼミ	雑誌	imagine	17
2002.02.01	記事	多摩大学チーム「プロジェクトK」 NHKロボコン2002特別賞受賞	出原至道ゼミ	ラポール	多摩大学	18
2002.08.01	記事	出原ゼミIVRC東京予選トップ通過	出原至道ゼミ	ラポール	多摩大学	19
2003.02.01	記事	望月ゼミ全国ビューティフル・ビジネスコンペティションで入賞	望月照彦ゼミ	ラポール	多摩大学	20
2003.09.01	記事	出原ゼミIVRC東京予選会トップ通過！！	出原至道ゼミ	ラポール	多摩大学	21
2003.10.10	記事	仮想現実コンテスト多摩大チーム3位に	出原至道ゼミ	新聞	読売新聞	22
2003.10.12	記事	考える力行動する力	自己発見・留学生交流	新聞	朝日新聞	23
2004.04.09	記事	求む！ナンセンス機械 10段階以上の工程を踏んで国旗を描く	ループ・ゴールドバーグコンテスト 齋藤T.裕美ゼミ	新聞	読売新聞 多摩版	24
2004.06.01	記事	VRコンベンションLaval Virtualレポート	出原至道ゼミ 「Tasmania」	雑誌	ロボコンマガジン	25
2004.06.22	記事	昨夏の影響関戸橋花火大会中止 大学生復活を陳情	自己発見	新聞	朝日新聞	26
2004.09.01	記事	ループ・ゴールドバーグコンテスト結果発表	齋藤T.裕美ゼミ	ラポール	多摩大学	27
2004.09.18	記事	3大学コラボレーション 野田のまちづくりシンポジウムとプレゼンテーション	望月照彦	タウン誌	のだジャーナル	28
2004.11.06	記事	多摩大・野田ゼミ 大学祭出店 模擬店は「株式会社」	野田稔ゼミ	新聞	朝日新聞	29
2005.01.01	記事	齋藤ゼミ神崎伸義君ホームページグランプリで受賞	齋藤T.裕美ゼミ	ラポール	多摩大学	30
2005.03.01	記事	出原ゼミヨーロッパ最大のCGの祭典“IMAGINA(イマジナ)”に出演	出原至道ゼミ	ラポール	多摩大学	31
2005.03.17	記事	集成館事業 経営学で検証 多摩大生6人仙巣園で研究発表	望月照彦ゼミ	新聞	南日本新聞	32
2005.06.15	記事	映画「耳をすませば」で町おこし “舞台”の新興住宅地	大川新人ゼミ、鴨川美紀	新聞	毎日新聞	33

「現代の志塾」 多摩大学のゼミ活動 掲載記事目次

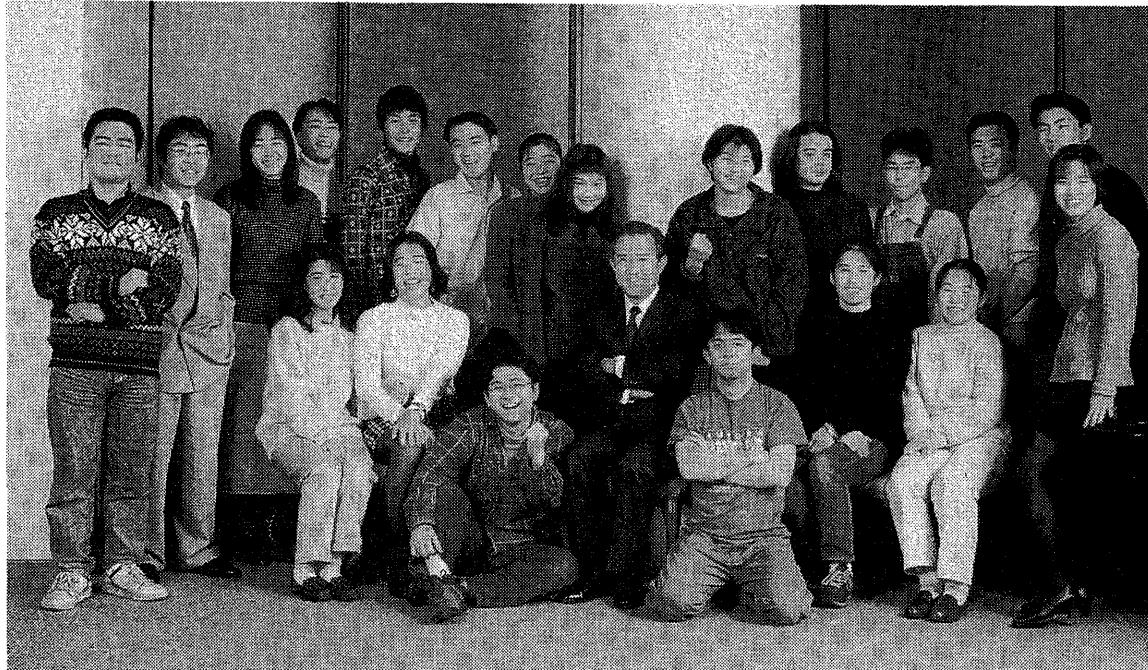
発行日付	種別	タイトル・見出し	対象ゼミ名	媒体種類	媒体名	頁
2005.07.01	記事	自己発見の成果 せいせき多摩川花火大会復活！！	鈴木隆久・丹野陽子	ラポール	多摩大学	34
2005.07.09	記事	アニメ『耳をすませば』モデルの多摩で街おこしの試み	大川新人ゼミ、鶴川美紀	新聞	朝日新聞	35
2005.07.15	記事	多摩大生らHP開設 住民の歩んだ歴史 生の声で	松本祐一EXゼミ	新聞	毎日新聞	36
2005.07.29	記事	第3回「栃木元気塾」観光スポットを多摩大生ら見学	望月照彦ゼミ	新聞	朝日新聞	37
2005.08.01	記事	ゼミ中心大学 EXゼミで新たな知のネットワーク！！	大川新人ゼミ・佐野裕美子ゼミ	ラポール	多摩大学	38
2005.10.01	記事	望月照彦ゼミ"小江戸"活性化を提案	望月照彦ゼミ	ラポール	多摩大学	39
2005.11.01	記事	せいせき 街おこし ~耳をすませば~	大川新人ゼミ	タウン誌	多摩ニュータウンタイムズ	40
2006.03.01	記事	松本EXゼミ永山活性化イベント開催～青い空は青い今まで、子どもたちに伝えたい～	松本祐一ゼミ	ラポール	多摩大学	41
2006.04.01	記事	団地遊道楽In永山・諏訪 松本EXゼミ地元団地を活性化	松本祐一ゼミ	ラポール	多摩大学	42
2006.04.03	記事	宮崎アニメ活用まちづくり議論 多摩の商店街	大川新人ゼミ	新聞	朝日新聞	43
2006.04.13	寄稿	大学生が作る若者のページ 多摩大学(上) 人間の多様さに気づく	三宅亮暢(経営情報学科学生)、自己発見	タウン誌	アサヒタウンズ	44
2006.04.20	寄稿	大学生が作る若者のページ 多摩大学(下) 自分の無限の可能性を信じて希望に向かって成長し続ける	三宅亮暢(経営情報学科3年)、望月照彦ゼミ	タウン誌	アサヒタウンズ	45
2006.05.11	寄稿	わが街の宝物は豊かな自然	松本祐一ゼミ	タウン誌	アサヒタウンズ	46
2006.06.11	記事	地域振興に学生の意見を 多摩大学望月ゼミ 夏合宿の観光地募集	望月照彦ゼミ	新聞	旬刊 旅行新聞	47
2006.07.01	記事	多摩大学の新たな試み 「チーム・マイナス6%」始動！！	浜田正幸ゼミ	ラポール	多摩大学	48
2006.07.08	記事	多摩川花火大会 成功させよう 多摩大生ら支援の大輪	大川新人ゼミ	新聞	読売新聞	49
2006.07.12	記事	和太鼓で花火盛り上げ 多摩大生ら多摩川河川敷の大会で企画	大川新人ゼミ	新聞	朝日新聞	50
2006.09.01	記事	体験型環境教育プロジェクトに多摩大生が大活躍	エコノミカ(サークル)	ラポール	多摩大学	51
2006.09.04	記事	江南の活性化 学生が提言	望月照彦ゼミ	新聞	読売新聞	52
2006.09.05	記事	合併控え江南町 官民連携で独自性を 多摩大生がまちづくり提案	望月照彦ゼミ	新聞	埼玉新聞	53
2006.10.01	記事	望月ゼミが江南町活性化について提言	望月照彦ゼミ	ラポール	多摩大学	54
2006.10.01	連載	街のデッサン(66)学生たちが江南町で提案	望月照彦ゼミ	新聞	旬刊 旅行新聞	55
2006.10.01	記事	学生が地域振興でプレゼン	望月照彦ゼミ	新聞	旬刊 旅行新聞 1227号	56

「現代の志塾」 多摩大学のゼミ活動 掲載記事目次

発行日付	種別	タイトル・見出し	対象ゼミ名	媒体種類	媒体名	頁
2006.11.01	記事	豊田ゼミ3チーム 関東10ゼミ討論会でコメントーター賞を受賞	豊田裕貴ゼミ	ラポール	多摩大学	57
2007.01.01	記事	中川ゼミ「コンビニ経営ゲーム大会」開催	中川理ゼミ	ラポール	多摩大学	58
2007.01.16	記事	連載「就職力」 多摩大 中川ゼミ 経営学べるゲームを企画	中川理ゼミ	新聞	朝日新聞	59
2007.04.01	記事	出原ゼミ「プロジェクトK」NHK大学ロボコン第1次選考を通過	出原至道ゼミ	ラポール	多摩大学	60
2007.09.20	記事	こんなコースや見所があります	松本祐一ゼミ	広報誌	広報たま 第1055号	61
2007.09.23	記事	身近な話題 地域のニュース 学生と授産施設手作りパン教室	大川新人ゼミ	新聞	毎日新聞	62
2007.12.05	告知	諏訪・永山地域磨けば光る「地域の宝物探し」・2007 ~秘宝展示会~	松本祐一ゼミ	広報誌	広報たまNo.1060	63
2007.12.21	記事	街をつくる まちに生きる 多摩NY40年「活気戻れ」学生助っ人	松本祐一ゼミ	新聞	朝日新聞	64
2008.05.01	記事	明日を拓く 地域と市民を結ぶSNS	山野篤 返町宗一郎(卒業生)	タウン誌	多摩ニュータウンタイムズ第806号	65
2008.06.19	記事	中1授業で団地応援	片桐徹也ゼミ	新聞	朝日新聞	66
2008.09.18	記事	多摩大生が英語でHP原稿	佐野裕美子ゼミ	新聞	北海道新聞	67
2008.11.03	記事	トランスクスモス・多摩大の产学連携「知的プロ」の基礎学ぶ	知的プロフェッショナルゼミナール	新聞	FujiSankei Business i.	68
2008.11.11	記事	キャンパスウォーク これが評判！多摩大サッカービジネスプロジェクト	サッカービジネスプロジェクト	新聞	毎日新聞	69
2008.12.04	記事	お茶で学ぶ和の心	村山貞幸ゼミ	新聞	読売新聞	70
2008.12.12	記事	多摩NTの歴史書き書きで保存 あすシンポ	松本祐一ゼミ	新聞	朝日新聞	71
2008.12.12	記事	「書き書き」通し街や仕事を考察	松本祐一ゼミ	新聞	読売新聞	72
2008.12.27	記事	日本文化楽しんで！多摩大生が児童を指導	村山貞幸ゼミ	新聞	東京新聞	73
2009.01.25	記事	多摩大学企画「日本大好きプロジェクト」子どもたちが茶道・紙芝居体験	村山貞幸ゼミ	広報誌	目黒区報	74
2009.02.20	記事	多摩大生 小学校で授業	菅野光公ゼミ	新聞	読売新聞	75
2009.04.03	記事	トランスクスモス、多摩大連携第2弾 職場で”仕事力”特訓ゼミ	知的プロフェッショナルゼミナール	web	FujiSankei Business i.	76

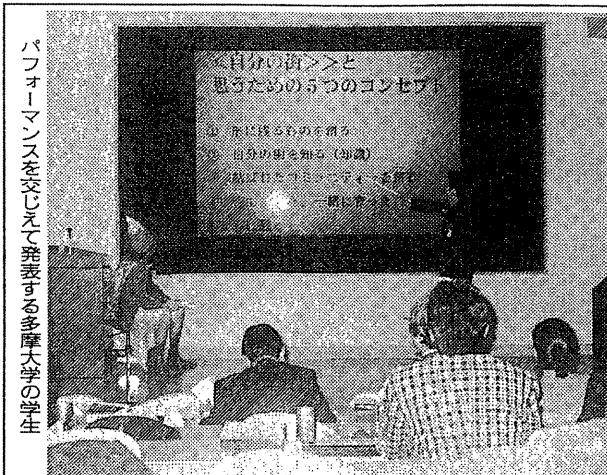
セミナー訪問 288 オリックスは応援します。——柳ゼミ(多摩大学・経営情報学部)

企業人との交流の中から 生きた経営学を学ぶ実践型ゼミ。



柳ゼミ●経営戦略論

柳ゼミは学内はもとより学外でも「開かれたゼミ」として知られている。企業訪問で経営者にインタビューする、研究発表の場に第一線のビジネスマンを招いて意見を聞く、企業幹部セミナーに出席してディスカッションする、ベンチャー企業の経営者の講演を聞くといった企業人との交流が極めて盛んだ。野村総研コンサルティング部長を歴任し、各種の企業セミナーや協議会の講師も務める柳孝一教授は、産業界での幅広い人脈を活かして、こうした外部との接触の機会を数多く設けている。「経営学は実際の経営」にならないと意味がありません。理論も必要ですが、今企業社会で起きている課題に対応できることが重要」と教授。「企業人と直接、接点を持つゼミは他にないと思います。ビジネスの現場の声が聞けて、実践的な生きた経営学に触れることができます」と学生にも好評だ。さらに、他のゼミの学生や大学院生も参加し、他大学との合同ゼミも頻繁に行われる。演習のテーマは「経営戦略の体系とケーススタディによる経営戦略の解明」だが、外部との交流で得た情報を活かして、取り組む課題はより実践的で具体的になり、ディスカッションにも熱が入る。教授はゼミ生の自主性に任せており、欠席者は皆無に近いという。「OBや大学院生、企業幹部を前に発表することも多く、教授からは矢のように辛辣な批評が飛んできます。プレッシャーがかかるけど、考え方には幅ができるし、度胸も身につきますね」とゼミ生。教授が学生に望むのは、常に自分で考え、新しいものを創り上げようというベンチャースピリット。その願いに応えて一人でも多くの起業家が生まれることを期待したい。



ニュータウン将来像は…

TOKYO
点描

「水上バスを走らせて公害のない街」 「屋上菜園を増やし野菜を自給すべきだ」 「老人ホームと幼稚園が一体となる『老稚園、そつくれ』」 東京都多摩市の多摩大学の学生たちが学園祭で多摩ニュータウンの将来像についてのアイデアを披露した。

多摩大生が 個性的提案

彦教授のゼミナールの学生たちは、五人程度の九つのチームが仮想のコンサルティング会社となって、多摩ニュータウンの活性化を提案する。CG（コンピューターグラフィック）一人として刺激を受けた。ライフスタイルの分野までもっと踏み込む「もっとといい」を話す。望月ゼミは約七年間、同様の発表会を開いており、参加した学生の中には卒業後に企画会社を設立したケースも。荒川区は十月十三日、学生チームに区内の中小企業の活性化策の提案してもらう予定で、学生と地域を結ぶ取り組み事例として面白い。

パフォーマンスを交えて発表する多摩大学の学生

ひとニュース



国分裕之
スマーク
エム
フォー
社長

インターネットが“主戦場”
資金4350万円調達

「恐らく将来の可能性を評価してくれたんでしょう」。日本初のインターネット公募で一気に四千三百五十五万台の資金をネットで調達したのは、パソコン保守サービスなどを手掛けている「アシターネット」(東京)の国分裕之社長(22)。多摩大経営情報学部の四年生だが、昨年二月に株式会社を設立、初年度から一割配当を実施した。パソコンゲームマニアが高じて、ゲーム会社から新製品のセニターを頼まれた

パソコンやインターネットの知識をビジネスに生かす学生ベンチャーオーナーが増えている。ネットワークを使ったパーティナル・コーポレーション(仮想企業)ならスタッフも集めやすいし、資金もかからない。サイバーベース(電腦空間)の広がりが、新しい若者起業家を生み出している。

インターネットが“主戦場”



のが高校の時。「これはビジネスへなる」と五年前、仲間と一緒にまず合資会社を設立した。從業員はネット上の仲間だから、雇用保険など固定費もかかるない。

企業経営者などを対象に「日本」高いインターネットプロバイダー(接続業者)サービスも始めた。月五万台で自宅まで出張、接続から保守まで手取り足取り面倒見る。「サラリーマンには夢がない」と、二〇〇〇年の上場を真剣に考



孫泰蔵
インディゴ社長

ホームページ製作
応援スタッフ80人

も東大経済学部の四年生。会社設立は昨年1月。「自分なりにやりたいことを考えた結果、就職先も経営者を選んだ」という。ホームページ制作などを手掛けるインディゴ(東京)の孫泰蔵社長(24)

氏は米国のインターネット関連企業の買収などで一躍時の人になったソフトバンクの社長。「兄を意識したわけではないが、将来の成長分野を考えたらインターネットを行き着いた。やるからには兄弟も負けたくない」。正社員は五人だが、八十人のスタッフがネットで応援する。

パソコンの家庭教師サークル会社、「コンピュエクス」(東京)の相澤正元社長(24)は慶大商学部の二年生。就職氷河期の今、希望した会社に入る保証はない。入れたとして、

柏原正元
コンピュエクス
プレス社長

仮想企業に
国境はなし

それが得策と思った」。会社設立は昨年1月。「自分なりにやりたいことを考えた結果、就職先も経営者を選んだ」という。ホームページ制作などを手掛けるインディゴ(東京)の孫泰蔵社長(24)

それは、留学生。「会社設立に受けないから」。役所の型通りの規制運用を好みにつけた。「インターネットには国境がない。彼らが帰国した後は、アジアと広がる仮想企業だ」。資金力に拘らず、ビジネスをやっていて、ネットワークは夢とビジネスをはぐくむ振りなどはない。

(編集委員 関口和一)

アントレ news

「アントレ」のロゴ

起業・事業経営を行なうアントレ読者には必要不可欠な「ヒト・モノ・カネ・サービス」の4つのテーマ。

アントレ編集部は、それぞれのテーマごとに
NEWS(新しい動き)のNEWS(価値)を毎月随時。独自取材でお届けする!



多摩大学・望月照彦教授
若いころ大学からスピアアウトして「ベンチャーシングタンク」を起こした経験が、ゼミの授業に活かされている

「インキュベーション」という言葉がある。「孵化」という原義から、現在ではアントレプレナーシップやベンチャー企業の育成という意味で使われている。だが、卵になつてからでは遅い。まだ芽生えの段階でベンチャー精神を吹き込むと、「イノキュレーション」(種付け・土壤改良)を想起し、実践しているのが多摩大学・望月照彦教授である。

「学生たちに問題意識を植え付け、具体的な行動の起点となる動機付けを与えたいたい」ということです」。

89年にスタートした望月ゼミでは、教授はめったに教壇に登らない。教壇で話すのは学生の方。それも5人1チームの「企業」の代表として、与えられた経営課題を解決する具体的な戦略や方針論を全員の前でプレゼンテーションする。

「ビジネスゲームでは意味がありませんから、テーマは企業や自治体から与えてもらおう。マナーなど基本的なことはきちんと伝えますが、ハウツーは一切教えない。自分の意志で行動し、社会で活躍できる人間になれるように、10年間の教育で凝り固まった思考の土壌を抜本的に改良したい」ということです」。

89年にスタートした望月ゼミでは、教授はめったに教壇に登らない。教壇で話すのは学生の方。それも5人1チームの「企業」の代表として、与えられた経営課題を解決する具体的な戦略や方針論を全員の前でプレゼンテーションする。

「チームでやれば自分の得手不得手や役割がみえる。アボを取って企業の担当者に会うといった行動は、将来のネットワークとしても活きてきます。実体験を通じて、学生たちにはできるだけ発想の出島を作つてほしいと願つてゐるんです」。

「起業家になるなら今は、結果として本人が決めねばいいこと」という望月教授だが、すでに卒業生のなかアントレプレナーが何人も誕生している。そのレブレナーが何人も誕生している。その業は、次のように言う。

「その気になれば、見る人の聞くものがすべて情報になるし、ヒントになります。創造力のない起業家は、アントレプレナーに値しないと思います」。

起業家精神を「種付け」する 多摩大学・望月ゼミ

(ヒト)



望月ゼミから誕生した起業家たち。白倉正子さん(左)は「トイレ企画会社」、鈴木奈さん(中)は「シンクタンク」を創業。若木重博さんは現役の2年生ながら「荒川区の中小企業活性化懇親会」を完成させた。

い。探し方も含めて情報への嗅覚も磨いてほしいですから、『健脚』(ゼミの参加条件ですね)。

望月ゼミの1~2年生が1つの課題にてほしに取り組む期間は1~3ヶ月。最終的にはたとえば「多摩地区の持続的コミュニケーション戦略」といったテーマに挑戦し、優秀な「起業家」は実際に発注者の前で発表を行う。昨年暮れに行われた荒川区へのプレゼンテーションでは、迫力・内容とも関係者をうながせたといふ。

「チームでやれば自分の得手不得手や役割がみえる。アボを取って企業の担当者に会うといった行動は、将来のネットワークとしても活きてきます。実体験を通じて、学生たちはできるだけ発想の出島を作つてほしいと願つてゐるんです」。

「起業家になるなら今は、結果として本人が決めねばいいこと」という望月教授だが、すでに卒業生のなかアントレプレナーが何人も誕生している。その業は、次のように言う。

讀書

卷之三

月見

1999年(平成11年)2月4日(木曜日)

(第三種郵便物認可)



大スクリーンを使ってプレゼンテーション

自ら情報集め企画 活躍する卒業生も

晶とも言える企画書を作り上げた後は、その内容を豊田教授と事業家の前にて披露するという最後の仕上げが待つてゐる。学生たちは、聞き手の気持ちを動かし、納得させる提案

「先輩たちを見ながら『いつかは僕だって』と思っていました」と三年生の片倉崇哉さん(22)は言う。若い起業家が多く、元ゼミ生や、「アン・トレイル・プランナー」というトイレスのコンサルティングなどをやってる会社を興して活躍中の女性社長もいる。

若き起業家夢見て

ゼミに入学後も、新しい課題が待つ構えている。月曜彌教授(55)のほか、ビジネスの第一線で活躍してゐる先端的な事業家たちが発業のトツ
会の約束ある。自家として

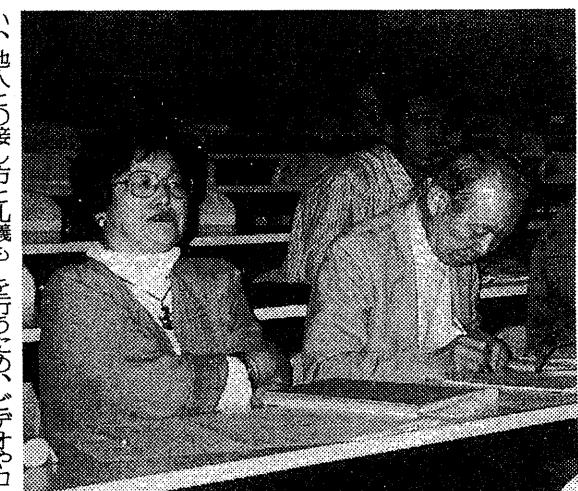
摩大学の理念を体現した内容を取り組んでいた。ゼミに入る選抜試験の段階から、学生は起業家としての資質を試される。「多摩で起業する」をテーマに会社設立の企画書を作り、発表しなければならない。そこで、企画書の構成要素や評議会での発表方法などを学ぶ。また、起業家としての資質を試すための課題も設けられる。評議会では、他の学生の企画書に対する意見交換や、実際の起業活動へのアドバイスが行われる。最終的には、評議会で最も優秀な企画書を選出し、賞金が授与される。

多摩大学の望月ゼミの「アントレpreneur」。
起業家という意味だ。日本の
経営学の開祖ともいわれていて、
野田一夫学長と、ベンチャービジネスの概念を日本に広めた中村秀一郎学部長のもとで、一九九〇年に開学した多

注した課題について、企画を
練り上げねばならない。
与えられるテーマは「ウォ
ルト・ディズニーを越える—
チャーチンコ業界への挑戦」(存

た
ま

第3多摩版



審査員たちの厳しい視線が注がれる

言葉

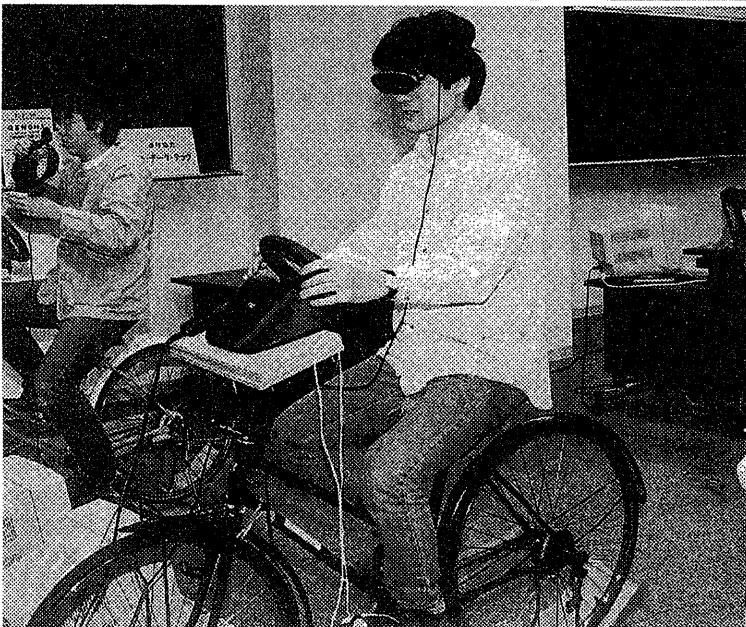
言葉

乗合

乗合

1999年(平成11年)4月1日(木曜日)

(第三種郵便物認可)



▲
学生たちはコンピューター
自転車にまたがってマウス狩りにて
出発!



泊まり込みで開発 いつかはゲーム場に

たのは、「手抜きだ」と出原助教授は笑うが、何が出てくるか分からぬ期待と不安が臨場感を高め、いつのまにかゲームに引き込まれていく。

コンテスト直前の追い込み時期は、多摩ニコータウンの一角にあるキャンパス内の研究室に泊まり込んで作業に打ち込む学生もいた。その一人、新四年生の田中雄さん(26)は「大変だったけど楽しかった。物を作り上げる達成感も大きかった」と振り返る。

ゼミは、年生の後半から入れる。「うちで作ったゲームがいつか、ゲームセンターに並んだらいいですね」と出原助教授。塵モ共同開発の申し込みはいつでも歓迎」だ。

多摩大学経営情報学部(多摩市聖ヶ丘)

出原セミ

は特に
この仮想の
分野に力を入れてい
る。

ようやく今月で三年目を迎えた「武
器」を持つと
える新しいゼミだが、研究の一環で昨年11月、岐阜市で
行われた「学生対抗手作りバ
ーチャル・リアリティーコン
テスト」にコンピューターゲ
ーム「Gensis」を出品して岐阜大賞を受賞した。

このゲームは、プレイヤーは用いず、学生たちが「から

が原人となり、食料のマ

ン

プログラムして作り上げた。

市販のCG作成ソフトなし

て倒す。

動きは

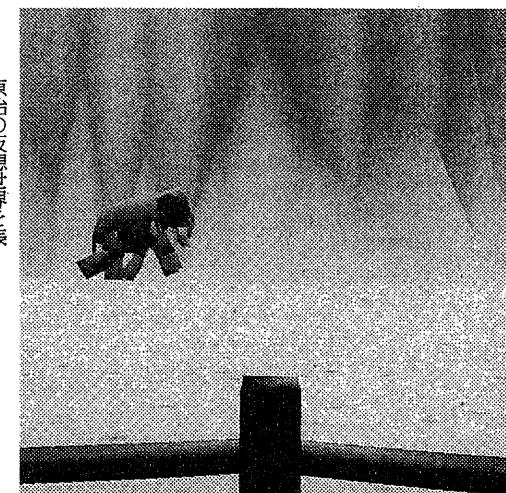
スムーズだ。

画面の遠くを霧で隠し

原始の仮想世界を表
した画面の
モスを発見

霧の中マジ
モスを発見

仮想世界手作り



た

ま

第3多摩版

コンピューターグラフィックス(CG)映像などの仮想的な世界を、画面表示や音響システムなどの機器を使いつて疑似体験させるバーチャルリアリティー。コンピューターのプログラミング技術を研究している出原至道助教授(31)と約40人のゼミ生たち

ミ生たち

プレーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

レーであるのが特長だ。

ゼミ生の一人がバスのつり革のパイプにつかまっている時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

りの形をし

莫斯を狩るゲーム。全部で三

人まで、同じ世界で一緒に

ゲームのパイプにつかまっている

時に、「こんなふうにやりを握って投げてみたら楽しいのでは」と思いついたのが、ゲームを生むきっかけだった。

プレーヤーは自転車に乗

り、ヘッドホンとゴーグル型

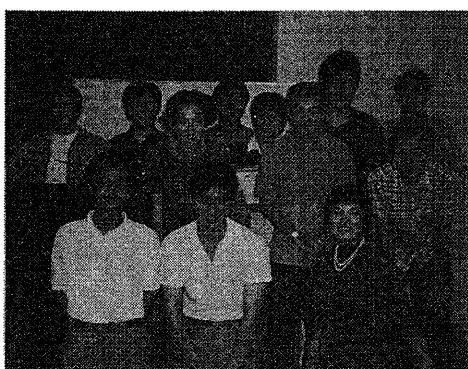
のディスプレー(画面表示装

置)を装着する。や

ムービー movieをつくろう!

多摩大学・齋藤裕美ゼミが
高校生の「デジタルムービーコンテスト」を開催

何を学ぶかは、将来の生き方を選択すること。それはどんな人間になるかを決めること。そして学びの中で普遍的な社会で生きる力を身につけることを掲げる同大が、「好きなことを見つけ、学ぶ楽しさを知るきっかけになれば」と高校生とのコラボレーションへの取り組みとして8月5日、「第一回デジタルムービーコンテスト」を開催した。また、審査発表前の3・4日の両日には、マッキントッシュやワンドウズの使い方を分かりやすく指導するオーブンゼミも開き、近隣の高校生や小・中学生、社会人も多数参加するなど賑わいを見せた。



ビデオ作品コンテストの受賞者を囲んで、記念写真におさまる齋藤ゼミの学生たち(写真中央は、ビジュアル賞の多摩大附属聖ヶ丘高校2年の中関本篤君と鈴木慎太郎君)

(コンピュータグラフィック)技術の啓蒙と新しい発想の物作りを目的にしたコンテストを通して、高校生に物作りの面白さを知つてもらい、一緒に楽しんでもらおうといふもの。まずゼミの学生が、自らの大学を紹介するビデオを

できるのか」。最近ビデオ編集に関心を持つ高校生が増えていることから、CGクリエイションやグラフィックスが好きで集まっている学生がほとんど。そこで「大学で何を学ぶことができるのか」。最近ビデオ

増えてるところから、CGで「コンピュータグラフィック」と銘打ってはいる

作品は三人前後の高校生と顧問の先生が一チームで取り組んだ。「デジタルムービー」と銘打ってはいるものの、高校生が使用しやすい8ミリビデオやVHS

で作つてもいい。また、ビ

デオカメラで撮影した実写

グランプリは私立多摩大学に! 目黒高校に!

作品は三人前後の高校生と顧問の先生が一チームで取り組んだ。「デジタルムービー」と銘打ってはいるものの、高校生が使用しやすい8ミリビデオやVHS

で作つてもいい。また、ビデオカメラで撮影した実写

グランプリと準グランプリを独占したのは、高度なネットワーク時代を想定したデータベースの活用を授業に取り入れていること

で知られる私立多摩大学 目黒高校。グランプリチームのメンバーは辻田政幸君、神崎伸義君、大久保順一君の三人。「まさか高校生の作品とは思えない」と講評

された完成度の高いもの。准グランプリは佛子正彦君、岡光樹君、水野祐輔君のチームだ。

アイデア賞は、埼玉県立三郷工業技術高校の鈴木千恵子さん、進通嵩正君、阿久津光太君、小笠原司頸君



＜学識性＞＜国際性＞＜実際性＞という多摩大学の教育方針であるキーワードが書かれた光の王を手で握っている。(齋藤ゼミ制作のムービーの一場面。この後、光が強け、沈黙の後、光が収束する)

コンテストを企画したの

は、齋藤裕美教授。

同大は

R効果も高まつた」と鈴木

君。早くも一人は「来年も

私立多摩大学附属聖ヶ丘高

校の間本篤君と鈴木慎太郎

君の二人。音楽教室に参加

したもの。ビジュアル賞は、

中村剛司君ら五人で挑戦し

たもの。ビジュアル賞は、

中島信也さん(CMディレクター)

を呼びかけられた。PRビ

デオの作成は、間本君のビ

アノの創作から始まつた

。この後、光が強け、沈黙の後、光が収束する

。アksesは百件以上も

あり、高校生のインターネ

ットの普及率と利用者の多

いことを知る。また、学生

が直接高校を訪問するな

ど、積極的な広報活動を展

開した。結果応募総数は二

十作品。第1回としてはま

ずまずのスタートとなっ

た。宣伝活動に奔走した横倉

健さん(3年)は「来年も

われわれ学生を刺激するよ

うな高校生の作品に出合い

たい」と次回に向けて期待

オープンゼミ



マックやワンドウズの使い方を高校生や近隣の小・中学生、社会人の人々に分かりやすく教えるオープンゼミも行われた

シンポジウム

審査発表当日にはTVコマーシャルなどのヒットメーカーとして著名な中島信也さん(CMディレクター)を講師に迎え、「映像で表現するということ」をテーマにシンポジウムを開催